

# 主な内容 広報活動について 獨協同窓会執行部・・・(1) 歴史ギャラリー第2回企画展開催中 (2) 平成22年度総会・懇親会報告 (3) 三回目の獨協祭参加 櫻田可人・・(4) 私の獨協物語 抄 吉田嘉明・(5) これが獨協野球なり 淀縄哲之・(6) 2010年夏アーチェリー沖縄インターハイ試合報告・・・齋藤有子・・(7) PASCHの現在と今後の活動について 須江康司・(8) クラス会だより (10) 私の近況 (13) 追悼 橋本徳朗・(16) コンビニ振込用紙の取り扱いについて (16) 編集後記 (16)

http://www.dokkyo-mejiro.com





題字・天野貞祐

#### 第75号

平成 22 年 12 月 10 日発行

発行所 〒 112-0014 東京都文京区関口3-8-1 TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通) **獨協同窓会** 発行責任者 鈴木 荘太郎



同窓会の活動は同窓会会則第3条にもあるように「本会は、会員相互の親睦と向上を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。」とあります。会員相互の親睦を図る目的として、同窓会では年二回「独協通信」を発行しています。また、会員が一堂に会する機会として年一回の総会及び懇親会を開催しています。会報の発行と総会の開催は同窓会の主要な活動でありますが、これらの活動がさらに活発になることが期待されています。そのためには多くの同窓生が同窓会活動に参加していただくとともに、同窓会執行部としては多くの同窓生に同窓会活動を理解していただき、同窓会活動へ参加していただくよう働きかけることも重要な活動のひとつとして取り組んでまいりました。

「独協通信」の発行は紙面をご覧頂ければわかりますように同窓会や中学・高校の動静をお知らせする記事、同窓会の運営にかかわる総会のご案内、収支決算報告などが掲載されています。また、同窓生の動向については「クラス会だより」というコーナーでは各クラス、学年で開催されるクラス会などの模様を紹介し、部活動のOB会の模様などもあわせて紹介して紹介し、京を後ン十年」(春号)などで近況を紹介し、同窓生の様子を知る手がかりなどにもなっていると考えています。そのほか、同窓生に原稿をお願いして、在学当時の思い出などを掲載しております。最近は、同窓生の寄稿、投稿が少なく編集委員会でつてを頼りに原稿をお願いしているのが実情です。どうぞ、同窓生の皆様

からの原稿をお待ちしております。同窓生の動向のほかにここのところ多い記事としては、中学・高校のさまざまな活動状況についてお知らせするようにしています。日独文化交流の一環としてのPASCHの活動や演劇部・アーチェリー部の活躍ぶりなどを紹介してきています。

同窓会総会・懇親会については、本号にも報告記事がありますが、会の運営について同窓生の皆様方のご意見を伺い、その後椿山荘にて懇親会を開催しております。最近では在校生の活躍ぶりの紹介なども行っております。同窓会総会は例年6月の第3土曜日の夕刻に開催しております。同窓会に引き続きクラス会を開催しているクラス・学年などもありますので、各クラス会を開催する際にはご検討いただければと考えております。

広報活動としては、このほかに一頁目にありますように、獨協同窓会のホームページがあります。「獨協同窓会」で検索していただくと、容易にホームページにアクセスできるようになっています。是非一度にアクセスできるようになっています。是非一度にアクセスできるようになっています。是非一度では大だければと考えています。ホームページを開設の歴史あるいは獨協中学・高等学校のでいます。また、ホームページには同窓会に対していただきないます。クラスや学年ごとにホームページを開設しているところもあると聞きますので、同窓会ホームページを開きしているところもあると聞きますので、鋭意検討しているとのリンクをとの声もあり、鋭意検討しているのようなメディアの活用により、新たな交流の場が出来ていくものと考えて



います。そして、この場を活用しながら、より活発な同窓会活動にしていきたいと考えています。

以上のような同窓会の広報活動を踏まえ、今後は同窓会の広報活動をより充実していくための体制整備を執行部内で議論しているところであります。そのような意味でも年度幹事になっていただける同窓生の参加をお願いする次第であります。

他の私立高校の同窓会の中には独自に同窓会館など 持っているところもあり、同窓生の団結がしっかりし ているところもあるやに見受けられます。多くの同窓 生が同窓会に参集し、獨協学園を守り立てていこうで はありませんか。

#### 獨協学園資料センター 歴史ギャラリーにおいて

# 第2回企画展「獨逸学協会学校と文化芸術家たちの群像」開催中

獨協大学天野貞祐記念館1階の獨協歴史ギャラリー にて第2回企画展「獨逸学協会学校と文化芸術家たち の群像」が2010年10月31日から2011年4月30日 まで開催されている。

獨逸学協会学校は近代国家の法曹界、官界また医学・

医療界に多くの人材を輩出しているが、わが国の近代社会が成熟する過程で芸術・文化活動においても活躍された著名人を何人も送り出してきた。その中でも代表的な大町桂月、巌谷小桜、木下杢太郎、恩地孝四郎、水原秋桜子を今回の企画展では取り上げ、獨逸子を今回の企画展では取り上げ、獨逸子を今回の企画展ではあり、歴史的事景などを展示紹介している。彼らの多域の判めや自ら医師を表しる。学協会学校の門をくぐり、多感な学生活を送ったといわれている。

大町桂月、巌谷小波、恩地孝四郎ら

は在学中あるいは卒業後間もなくから文化芸術方面へ その才能を開花させていった。一方、木下杢太郎、水 原秋桜子は学校卒業後に所期の目的である医学部へ進 学を果たし、医師の道を歩んだ。木下杢太郎は皮膚科 医として東京大学教授を勤める傍らわが国の南蛮文



- 水原秋桜子・木下杢太郎・巌谷小波・大町桂月・恩地孝四郎 -

化・キリシタン文化の研究や小説、評論などにも活動の場を広げ、一流の文化人として知られている。この展示を通して獨逸学協会学校が明治大正時代にあって都会的な雰囲気の中で上質な教養を涵養する場としての役割を果たしていたことを知る機会となることと思います。

企画展「獨逸学協会学校と文化芸術家たちの群像」

は埼玉県草加市の獨協大学天野貞祐記念館1階の獨協 歴史ギャラリーにて、2010年10月31日から2011年 4月30日まで開催されている。月曜から金曜日は10 時から16時45分まで、土曜日は10時から11時45 分までとなっている。日曜・祝日は休館ですので気を つけてください。なお、ホームページはhttp://www. dac.ac.jp/gallery/、電話は048-946-2800です。

# 平成 22 年度総会·懇親会報告

6月19日(土)午後5時より22年度獨協同窓会総 会が母校小講堂で開催された。

議事に先だって、前年度に亡くなられた同窓諸氏の 氏名が読み上げられ故人の冥福を祈り黙祷を捧げた。

続いて、21 年度の事業及び収支決算報告、収支差額金についての処分原案を承認可決した。会費納入者数が「独協通信」送付者数の1割強しかなく、同窓会運営に支障をきたす恐れがあることが指摘された。引き続いて、22 年度の事業計画、収支予算案に関する諸案(独協通信74号参照)を承認可決した。特に、事業費については中高事業補助(図書費)、防災用品補助(大地震に備えて在校生用の食糧の備蓄)の充実、学友会補助費を復活させるなどした。今年で3年目になる獨協祭への展示参加のための予算も確保したことも併せて報告された。事務費については、個人情報保護法の関係で従来の様な形での名簿作成を見合わせたため、同窓会事務局での名簿管理の充実、一定条件のもとでの名簿提供のための予算を計上した。

議事終了後、ご臨席いただいた永井伸一校長から学 力向上と生徒・教職員の意識改革に力を入れ、計画通 りことが進んでいるとの力強い近況報告があった。

懇親会は椿山荘・ギャラクシーの間に会場を移し6 時30分より開かれた。鈴木荘太郎会長(昭35卒)の 挨拶の後、来賓の方々を代表して永井伸一校長から祝 辞をいただいた。ピアニストの清水智子さんが奏でる 美しい調べの中、古い卒業生には懐かしい思い出があ る先生方から、「獨協学」で博士号を取得された新宮 譲治先生に乾杯のご発声をいただき、賑やかな懇親会 の幕が開いた。今回は例年になく現役の先生方や若い 卒業生の出席も多く和やかな雰囲気に満ち、盛会だっ た。これも教職員やPTAの方々から同窓会に対する 理解を深めてもらう努力をしてきた同窓会執行部の成 果の表れと評価したい。若い卒業生の懇親会出席を大 いに期待する。また、在校生の諸君にも同窓会活動の 一端を理解してもらう試みとして、昨年から活発な活 動をしているクラブを会場に招くことを企画してき た。今回は、沖縄で開催される高校総体に東京都代表 として出場するアーチェリー部の国語科斎藤有子顧問 の活動報告と代表選手・芝田君らによる模範試射のデ モンストレーションがあった。同時に、会員の皆様に 遠征費用のご寄付までお願いし、ご協力をいただいた



ご寄付のお願いをしているアーチェリー部部員たち



校歌を熱唱する鈴木会長と山本啓介さん

ことにお礼申し上げたい (寄付総額 215, 326 円)。懇親会は立食パーティーの形式をとっているが、年度別テーブルのセッティングの仕方に工夫が足りないとの指摘もあったので、貴重なご意見を参考に次年度は工夫を凝らしてみたい。懇親会は恩師を囲んで、旧友と再会して話の輪が出来るような場にしたいと考えている。会もたけなわ、3月に卒業した新会員の紹介、飛び入りで山本啓介さん(昭 27 卒)の音頭による万歳三唱で盛り上がり、最後に全員による校歌斉唱となった。この日はワールド・カップ1次リーグE組の日本一オランダ戦の試合時間とも重なり、出席者の皆さんの気もそぞろ、予定した時間より少し早めの散会となった。

# 三回目の獨協祭参加

獨協祭出展実行委員長 櫻田 可人

今年の獨協祭は、10月2日(金)・3日(土)の2日間開催されました。同窓会としては、昨年に引き続いて獨協創生期の中心的な役割を果たした人物に焦点を当て、出展参加いたしました。

今年度のテーマは、「二つの人生を歩んだ北白川宮能久親王殿下(獨逸學協会総裁)」及び「帽章の生みの親・ニコポンこと桂太郎先生(第二代校長)」と題し、出展方法を昨年よりもシンプルにいたしました。壁面のパネルはその内容を小冊子に掲載するため活字だけとし、展示台にはジャンル別にまとめた資料写真と共に資料書物に説明文を加えるという展示方法といたしました。また、同窓会活動案内スペースでは、同窓会&ドクターズ・クラブの他にサッカー部OB会も初参加いたしました。

今回の獨協同窓会ブースへの来場者は、昨年に比べ て60%アップの約500名に達しており、中でも特記 できることは来年度以降の受験生とその保護者の方々 の姿が多かったことで、その数は昨年の3倍(約150 名)を超えました。これは、学校説明会場にいらっ しゃった受験生とその保護者の方々が増えたこと、即 ち獨協への関心の高まりと優秀校としての評価定着の 証ではないかと推測されます。そしてPTAの方々の 数も倍増しておりました(約180名)。また、多くの方々 よりアンケートにお答えいただき、「現在、社会で活 躍中の卒業生を取り上げて欲しい」などの貴重なご意 見を多数頂戴いたしました。更には、「昨年この会場 に来て勇気を貰い、お陰様で息子が入学することがで きました。ありがとうございました。」とわざわざご 報告を下さった保護者の方もいらっしゃいました。こ れは、胸が詰まる程の感動と目頭が熱くなる程の喜び を頂いた瞬間でもありました。これらの結果は、ひと えに学校側のご協力と会員皆様のバックアップの賜物 と感謝いたします。また、同窓会への関心が高まって 来たことによるものと感じております。

来年度のテーマは、まだ決定ではありませんが、東京大学初代総長で我が校第三代校長の加藤弘之先生を考えております。また、ドクターズ・クラブやサッカー部〇B会のように、各クラブや地域・団体における〇B会の方々から、その活動報告を兼ねた出展参加がいただければ…とも考えております。これからも母校のサポート役として、同窓会がお手伝いできることを考え、獨協祭へ参加し続けて参りたいと思っております。そのためには、会員皆様のご協力が不可欠であり、その活動のバックアップをお願い申し上げたいと存じます。

今回も、出展にあたっては多くの方々からのご協力 をいただき、無事に終了することができました。特に、 北白川宮能久親王殿下の四代目ご子孫であられ、社団 法人霞会館・理事長でおられる北白川道久様には格別





桂太郎先生の展示コーナー

のご高配を賜り、同総務課長の佐藤様にもご尽力をいただき、宮内庁書陵部の千葉所長・篠塚様には能久親王殿下及び富子妃殿下の御墓撮影のご配慮をいただきました。また、拓殖大学広報部・小林課長様、同創立百年史編纂室・石川課長様と武田様他の方々から、桂太郎先生の貴重な資料のご提供をいただきました。更には、株式会社画屋・小川社長様からは、まんが「4Pでわかる偉人伝」『わが人生ニコポン式~桂太郎物語~』を展示要約集への掲載をご許可いただきました。ここに関係者の皆様に心より深く感謝申し上げます。

最後に、ご来場下さった多くの方々への感謝と共に、 会場を提供して下さった獨協中・高の獨協祭実行委員 会の皆さん、獨協学園資料センター・中村女史、獨協



絶え間なく賑わいをみせた談笑コーナー

祭に初回参加時より多くのアドバイスと共にこの出展に導いて下さった㈱王文社・鈴木社長様に感謝申し上げます。そして、鈴木会長、金副会長、中村幹事長、竹内広報委員長、桑島・柳原・浅野・鈴木・神谷・竹森六名の常任幹事及びサッカー部〇B会斉藤・田林両君には展示の準備・片付けにご尽力をいただきましたこと、更には桑島先輩と竹森幹事には資料の提供をいただきましたこと、誠に感謝に堪えません。ご協力いただいたすべての方々へ心から感謝申し上げます。

この思いを胸に、来年・再来年…と更に充実した内容に、皆様の期待に応えられるような内容にするべく、獨協祭参加実行委員会は努力・邁進して行く所存であります。そして、重ねて、会員皆様のご協力を心よりお待ち申し上げております。



ドクターズクラブ・サッカー部OB会のコーナーも好評でした

# 私の獨協物語 抄

昭和19年卒 吉田嘉明

昭和 18 年卒の田中建吾さんよりご紹介いただきました昭和 19 年卒の吉田嘉明さんから「私の獨協物語」と題する原稿を頂戴しました。400 字詰め原稿用紙にして 54 枚にも上る長文の玉稿です。「独協通信」に掲載すべく検討しましたが、「独協通信」1 号分を大幅に超える大作ですので、内容をここに抜粋し、紹介することとしました。本文につきましては、同窓会ホームページに掲載しますので、是非ともご一読ください。

昭和14年4月に獨協中学校に入学しました。当時の校長は第9代の小山松吉先生で担任は小袋三千秋先生でした。当時は2年前の昭和12年7月の盧溝橋事件に端を発した日支事変のさなかにあり、昭和15年には国家総動員法が制定されました。入学後の1年はまだそれほど戦時色もなく穏やかなときを過ごしていました。住まいのある神田小川町から市電で江戸川橋まで来てそこから坂道を登り登校していました。坂の途中には関口パンがあり双子山型のフランスパンをカバンに押し込み登校し、授業時間中に先生の目を盗み食べたこともありました。授業科目としては、武道や教練などがあり国民が心身を鍛えることが求められていたことがわかります。国民総動員法制定以降は軍事教練や勤労奉仕に明け暮れる学園生活でした。

そのような時代ではありましたが、心に残る多くの 先生方のお名前と渾名が思い出されます。

音楽担当の新見先生、武道(柔道)の田島先生、佐藤先生、教頭の田村二十八先生(渾名は狸)、教練を担当された職業軍人の相沢先生(渾名は相カン)及び奥田先生(渾名はイモカン)、英語のリーダーを担当された土井治先生、英語の文法、作文を担当され発音のきれいだった藤島先生そして遠藤先生(渾名はガマさん)、松島先生、峰岸先生、野口敬祐先生(渾名はロンドンベガー)がおられた。ドイツ語は中学3年生からで島田先生(渾名はキューピー)が担当された。またドイツ人のザール先生もおられた。道徳と法律を中心に講義があった公民の先生は永田巌先生(渾名はガンさん)がおられた。数学は長崎先生(渾名はキートン)、久和正雄先生(渾名はガッチョ)、幾何の米波

先生、代数の田口先生などがおられた。国語では多田 先生(渾名はムクさん)、そして現在もお元気な大久 間喜一郎先生は新人として着任された。漢文は鈴野先 生(渾名はインドカバ)そして猪口先生がおられた。 地理歴史は浦上先生(渾名はチョビ松)。入学時の担 任の小袋三千秋先生の渾名は馬だったと記憶してい る。歴史では西村先生が大学卒業すぐに着任していた。 直接習わなかった社会科の先生に橘先生(渾名はエロ タン)がおられた。生物学は田淵行男先生がおられた。 田淵先生は山岳写真や蝶の写真で高名になられ、安曇 野に「田淵行男記念館」がある。作業という科目もあ り農作業の仕方を井口先生から習った。体育では津賀 元先生(渾名はツガパン)がおられたが、鉄棒が上手 な先生であった。

日支事変は泥沼化し、学校での授業は少なくなり、 軍隊からは池田少尉が着任され、野外訓練、行軍、野営などの行事が、代々木や習志野練兵場、富士の裾野、 日光戦場ヶ原で行われ、同行された。修学旅行などは 一泊二日の野外訓練に代わっていた。そして昭和16 年12月8日には米英を相手に宣戦布告された。戦線 の拡大に伴い各地で不利な状態となり、制空権がアメ リカの手に渡り本土空襲が始まった。昭和20年3月 10日東京大空襲では、私の家は被災を免れたが、東 京は灰燼となった。4月から大学への進学は決まって はいたが、私にも召集令状が届き、入営の準備をして いるうちに終戦となり、わが国も再出発のときを迎え たが、私も再出発を考えるときとなった。昭和21年 には歯科医師を目指して予備校へ通い、昭和22年か ら東京医科歯科大学に進学することが出来た。(了)

# 目白だより

# これが獨協野球なり

総務係長・高校野球部監督 淀 縄 哲 之 (昭61卒)

星野仙一氏が自らの大学生活を振り返る中で、「自分は明治大学『野球学部島岡学科』卒業である。」とコメントしていたことがあった。「島岡」とは言うまでもなく明治大学野球部の名物監督として知られた人物のことであり、「御大」と呼ばれて親しまれていた。明治大学の球場に行くと、島岡氏の胸像があり、その裏には「誠」「人間力」という言葉が記されている。聞いたところによれば、学生が当番である便所掃除をしているところに割って入り、「お前達の掃除には『誠』が無い。便器は『誠』で磨くものだ。」こう言って率先して便器を素手で磨き、手本を見せたのだそうだ。御大のエピソードは数多く、惹かれるものばかりである。星野監督のあの熱血漢は間違いなく御大の影響を受けているはずである。

クラブ活動の意義はとても大きいものである。自分 で好んで取り組むものであるが故に、物事がより深く 自身に刻まれるからである。私も獨協生であった頃は 野球に明け暮れていた。一回戦ボーイではあったが、 誰よりも純粋に熱血漢であったつもりである。当然の 事ながら当時培ったものは今でも消えてはいない。当 時の野球部はOBである長坂氏が民間会社で働きなが ら土日を使って野球を教えてくれていた。その目線は ご自身が民間人であるために教師の教えとは少々異 なっていて、「社会で活躍するために」という色合い がとても強かったと記憶している。言葉の節々に「会 社に入れば」と訓示されるので説教を受ける側にもよ りリアリティが増す。私も長坂氏も教員ではないので、 唯一できることは民間経験を生かした「会社」や「社 会人」の教訓を授業のように語ることだ。また、長坂 氏は「3年様」と冗談まじりに上級生のことを呼ぶの だが、この「3年様」が私は好きでたまらない。「3



ドライエリアでのバッティング練習



正門付近での練習風景

年生」だけ特別なのだ。それは大好きな野球を「この 夏が最後」と全てを賭けているその気概や姿勢に対す る敬意の証だ。現に3年生のプレーは比べ物にならぬ ほど、下級生より力強い。「人間力」が違うのである。 そして何よりも手塩にかけて「3年様」に育て上げた ことが嬉しくてたまらないのである。だから最後の試 合では常に3年生を中心にメンバーを組んでいる。これは世間のスポーツにある「実力主義」に対抗した、 「3年最強主義」と言える。現実は厳しいものであるが、 このロマンを私は長坂氏から監督の手本として継承し ている。これは「長坂学部」を卒業した私のイズムな のである。

高校野球は「お受験」のようなものだ。塾に通うか のように地域のリトルリーグやシニアリーグで硬式野 球の腕を磨き、志望校のセレクションを受験する。現 在は都立校でも野球で入学できる枠があり、多いとこ ろで10人を超える学校もあるのだから、その競争は 激しい。我々は東東京地区に所属しているが、甲子園 に出るには8回も勝たねばならない。冷静に分析する と、4回戦(ベスト32校)で対戦する相手はほとん どがそういった学校になってしまうのが現状だ。差を 補うべくより練習に励まねばならぬところであるが、 我々がグランドで練習できるのは火曜日と土曜日だけ であり、しかも半面のみ。あとは正門付近の空きスペー スやドライエリアで何らかの練習をして凌ぐ日々。当 然十分な練習などできる訳がない。けれどもこの環境 は選手達にはとても大きなプラスとなっている。目標 と現実のギャップを埋めるために、選手は自然と創意 工夫させられることになる。「強いチームに勝ちたい」 という思いに満ちているために、選手達は努力を惜し まない。「日本一工夫するチームを造ろう。これなら 誰でも日本一になれる。」こう選手達には諭している。 彼らに求めるものは「考え、工夫し、行動する。」こ の実践力である。必ずや将来、想像力豊かな人材となっ ていくことだろう。

我々野球部には栄誉ある実績は何も無い。けれども

#### 自自だより

毎年、大きく夢を見ている。「独りが己を磨き、力を合わせて協力する。これが獨協野球なり。」こういった言葉を部室の天井に掲げ訓示している。獨協の2文字のそれぞれに「独=自分自身」「協=和」との意味合いを持たせたものである。自分のプレーに満足し、「独」が達成できれば1勝。「協」が達成できれば更にもう1勝、合わせて2勝することを最低限と目指している。そして、自分のチームに自信を持ち、勇気に満ち溢れた状態で4回戦の強豪校に立ち向かうのである。我々はこの目標に迷ってはいない。私が監督となってからの14年間、4回戦進出を4回選手達が達成してくれた。最近では強豪校に、0-3、1-3といった僅差の試合を成し遂げてくれている。成せば成る。次は5回戦進出を虎視眈々と狙いたい。

野球部のOB会は出席率がとても高い。これは選手 全員を大事に育てて送り出した賜物であろう。「社会 の優等生になれ」。古い先輩から語り継がれるこの天



玄関前での練習風景

野イズム。選手達全員を順番に「3年様」に育て上げ、 継承していきたい。そして深い獨協愛に満ちたOBを 更に増やして行きたいと思う。

# 2010年夏 アーチェリー沖縄インターハイ 試合報告

国語科教諭・アーチェリー部顧問 齋 藤 有 子

2010年夏、各地で真夏日が連日続き、観測史上最 高に暑い夏となった。本州にいても暑いのだから、イ ンターハイ会場の沖縄も同じようなものじゃないか… そんな浅薄な予想のもと、とうとう念願の那覇空港へ 到着。タラップをおり、空港ロビーについたその瞬間、 普段の光景とのあまりの違いに選手監督一同、ひたす らびっくり!一言で表せば、県をあげての一大ビッグ イベントとでもいえばいいのだろうか? 「インターハ イ出場おめでとう」と書かれた看板、のぼりやポス ター、競技ごとの写真等々、空港内がお祝いムード(?) 一色なのである。しかも、首にぶら下げたIDカード を見る方々が皆「ご出場おめでとうございます」なん て声をかけてくださる。こんな風に出迎えられたら誰 でもテンションが上がるというもの!既に空港でやる 気満々、よし、応援してくださった方々のためにもべ ストを尽くすのだ!なんて選手と盛り上がっていざ外 へ。……暑い。暑すぎる。というか、肌が痛い。太陽 光線が尋常じゃない。南国の太陽を甘くみてました。 しかもアーチェリーの会場は、まさに乱反射眩い海岸 沿いに開設されている(但し海が見えないところが残 念)!

翌日から始まった公式練習・試合では、朝から氷と飲み物を山ほど買い込み、選手共々完全防備をして臨みました。真っ赤な獨協ユニフォームとともに帽子、長袖、首には濡れタオル、サングラス、忘れてはなら

ないデジカメ、双眼鏡(何しろ70メートル以上先の的を見る訳ですから。選手はもっと高性能のスコープを持っています)。昼休みにはちょっと海辺を散策したいなと思いつつ、この格好では怪しすぎる……と自らを戒め、試合に集中。

さて、試合初日の予選ラウンドですが、この「予選」、 予選のレベルを超えています。心の乱れがすぐに得点 となって現れるアーチェリーでは、周りの選手を気に せず、緊張をものともせず、ものすごい声援を何気な く受け止めつつ、淡々と打ち続けることが勝利への条 件です。しかも、ここは全国のアーチャーの憧れ、インターハイの会場。わずか数センチのずれがまさに勝 敗を決します。数々の大舞台を経験して来た本校の芝 田君ですが、やはりこのインターハイの雰囲気だけは 別物だったようで、いつも通りの実力を思う存分発揮 するというわけにはいかなかったようです。結果は 149 位に終わりました。

けれども、試合結果以上のものを芝田君は学んでく



練習会場で最後まで残って弓を引く芝田君



目に鮮やかな各代表校の校旗

れ、そして部員たちにも、顧問にも伝えてくれたと思っています。予選ラウンド敗退が決まり、会場の外に出て来た瞬間、他校の選手同様彼は号泣しました。本気で物事に打ち込んできたからこそ流せる涙です。 泣きながら来年度のリベンジを語るその姿を見て、私はもっと多くの生徒にこの感動を体験させてやりたいと

心底思いました。部活でもいい、勉強でもいい。とにかく、何でも目標を持って一生懸命やってみればいい。 たとえ目指すところまで到達できなかったとしても、 それに向けて努力をすることが、君たちの学生生活を どれだけ充実させることか!何も本気でチャレンジせず、何気なく終わっていく青春って、もったいないじゃ ない。

インターハイ最終日、羽田空港で「引率ありがとう ございました。来年もよろしくお願いします」と言っ てくれた芝田君。そして、次の日から始まった合宿で、 食い入るようにインターハイの試合(名監督が録画し ました)に見入った部員たち。「自分たちもここで試 合をしてみたいです」。その思いを忘れずに努力をす れば、君達は必ず大きく成長する!一歩一歩、また皆 で一緒に頑張っていこう!

そして最後に同窓会の先輩方、応援してくださった 全ての方々。今回生徒・顧問が多くのことを学ぶこと ができたのは、皆様のご支援のおかげです。本当にあ りがとうございました!この場をお借りして厚く御礼 申し上げます。

# PASCH の現在と 今後の活動について

教諭・ドイツ語科主任・情報センター部長 須 江 康 司

昨年12月に、獨協高等学校がドイツ連邦共和国と締結したパートナーシップ、PASCH(「未来を拓くパートナー」)の活動の一つとして、渡辺教頭、音楽の古池先生、私の三名がベルリンを訪問し、いくつかの学校の環境教育の取り組み、外国語や音楽の授業などを視察してまいりましたが、それにつきましては渡辺教頭が既に同窓会報前号でレポートしております。

ここでは、その後のPASCH関連の流れと今後への課題につきましてご報告申し上げます。

まず、昨年度3月から今年度4月にかけて、現在の高校二・三年生を対象とした特別講習を実施いたしました。十名の生徒が講習に参加し、内七名が本年6月6日に早稲田大学高等学院で行なわれた、PASCHパートナー校対象のドイツ語能力資格試験(START-DEUTSCH)に合格いたしました。さらにその中から高校二年生三名が、8月8日~28日にドイツ、フライブルク近郊のビルクレホーフというところで行なわれた青少年ゼミナールに奨学生として招待され、全世界十八ヵ国から集まった百十名のドイツ語を学んでいる高校生とともに、ドイツ語をコミュニケーション言語とした国際交流という稀有な体験をしてまいり

ました。

今年度4月からは、新しいドイツ語カリキュラムが始まり、現在約三十名の高校一年生が、来年の資格試験での合格を目指して学習に励んでおります。来年度もこの試験の合格者の内、成績優秀者にはドイツでの青少年ゼミナール参加の奨学金が与えられる予定になっております。

同時にまた、PASCHパートナー校としての様々な企画も同時にスタートしております。PASCHという制度は、ドイツ語を教えている教員やドイツ語を学んでいる生徒が、一方的に恩恵を享受するだけのシステムではなく、私達も、生徒のドイツ語学習やドイツ文化理解が深まっていることを、ドイツ側に示していかなければならないという義務を負っています。そのためには、ドイツ側が提案してくる様々な企画に、



青少年セミナーにて(高校2年 堀 匡寿 君)

積極的に参加していかなくてはならないのです。

まず、7月から8月にかけて行なわれたのが、ドイツの企業を順番に訪問しながら、課題を解決していくという企業訪問オリエンテーリング「Schnitzeljagd」(シュニッツェルヤークト)でした。まず最初の課題がゲーテインスティトゥートから与えられ、その答えを持って指定された企業を訪ね、そこで次の課題をもらって、さらに二番目の企業へ行く、ということを五回繰り返して、最後にゴールのゲーテインスティトゥートを訪問する、という企画なのですが、そこには次のような過酷なルールがありました。

- 1) 訪問する企業の担当社員(前もってリストが渡されています)に、訪問する生徒が自分で電話をかけて、どの学校から、なんという名前の生徒が何人、何月何日の何時に訪問したい、とドイツ語でアポイントをとらなければならない。
- 2) 訪問先で生徒は社員にドイツ語でインタビューをして、その企業についての情報を集め、一週間 以内にドイツ語でレポートを書いて送らなければ ならない。
- 3) 教員が付き添えるのはビルの入り口までで、訪問中は、ゲーテインスティトゥートから派遣されたドイツ人だけが付き添える。

この企画が最初に私達パートナー校の教員に伝えられた時は、期間が学期末から夏休みという、高校一、二年生にとっては、講習やクラブの合宿などで大忙しの上、学校に毎日来るわけでもなく、連絡を取るのも一苦労な時期であるため、参加してもゴールに行き着けるかどうか、もとより参加してくれる生徒がいるのかどうかすら確信が持てませんでした。

それでも、既にドイツへの研修を手にしていた高校二年生三名と、PASCHカリキュラムでドイツ語を学んでいる高校一年生四名が参加してくれることとなり、我々ドイツ語科教員も側面でいろいろと手伝いをしながら、その七名がかわるがわるチームを組んで何とかゴールにたどり着くことができました。

訪問した企業・団体は、昨年の調印式にも出席くださった Merck 社を皮切りに、将来ドイツ語に関係する研究者となった場合には必ずお世話になる DAAD (ドイツ学術交流会)、世界的大企業のルフトハンザドイツ航空、フォルクスワーゲン社の日本支社と続き、ゴールの東京ゲーテインスティトゥートを訪問したのが8月中旬でした。

参加してくれた生徒諸君には心から感謝とねぎらい の言葉を贈りたいと思います。

次に、現在進行中のものとして、「ライフスタイル」 (ドイツ語で Lebensart レーベンスアルト)というユニークな企画をご紹介します。

これは、日本の高校生に、ドイツの高校生が大人の 社会に仲間入りするために身につける教養を知っても らおう、という目的で考えられたもので、11 月 20 日 に行なわれるパーティーでの発表会をめざして、現在 六名の高校一、二年生が参加しております。そのパー ティで披露されるのが、テーブルスピーチと社交ダン スです。内容は、ヨーロッパで現実に行なわれている ディナーパーティーそのもので、フルコースの食事を とりながら、夏にドイツの研修を経験した生徒の代表 がその報告をテーブルスピーチの形式にのっとって発 表します。そして、食事の後は社交ダンスの披露が始 まります。まず、デモンストレーターとして数組の高 校生カップルがジルバとワルツを踊り、その後はオー プンダンスとなって、男子生徒は女子生徒を誘って数 曲踊ることになりそうです。



11月20日のパーティー デモンストレーションダンス 第二部 ジルバ 高校1年大平周史君が参加しました

春以降ゲーテインスティトゥートでは、月一回から 二回のペースで、ドイツ人と日本人の専門講師による ダンス教室が行われており、こちらには高校一年生五 名が参加しています。既に他のPASCHパートナー 校の女子生徒とパートナーを組むことが決まっている 生徒もいるようです。発表会まであと二ヶ月を切り、 練習にも一段と熱がこもってきました。獨協生から誰 がスピーチ、あるいはデモンストレーションダンスに 選ばれるか、楽しみでもあり心配でもあります。

この他にも、早稲田高等学院の先生がドイツ語で化学の授業を行なうという催し、来年に日独修好百五十周年を迎えるにあたって、その開幕セレモニーへのPASСHパートナー校の参加、今春の試験で合格した生徒を対象にしたドイツ語コンテストなども、次から次へと企画されています。

そして今年度を締めくくる最大の企画は、年明けて2011年の3月下旬に行なわれる、アジア地区のPAS CHパートナー校が日本に集まる、国際ドイツ語キャンプでしょう。昨年はタイ、今年はインドで開催されており、それぞれ木更津高等専門学校が参加しました。アジア各国でドイツ語を学んでいる高校生が、ドイツ語を媒介言語としてお互いに交流を図るという、大変大掛かりな催しです。代々木の青少年センター、及び御殿場の国際青少年教育センターに約五カ国の高校生

が集います。獨協からも生徒十名程度、教員一名の参 加が要請されています。

このように、それぞれの学校の事情や学事予定をあ まり考慮しない形で提案される様々な催しに参加を義 務付けられるという状況は今後も続きそうです。さら に、これらの企画の経費はすべてドイツ政府の予算で まかなわれており、ドイツもご他聞にもれず金融危機 以来の財政難とのこと。次年度このPASCHにどれ くらいの予算を割いてもらえるのか、日本側のコー ディネーターであるゲーテインスティトゥートも悩み を抱えている様子であります。ともあれ、三年間を一 区切りとして始まったこのPASCHですが、最初の 一年を経過して、成果もあり、見えてきた問題もあり と、なかなかに刺激的な経験であったと申せましょう。

わが獨協高校についていえば、今年成果を挙げた生 徒が皆、中学三年生からドイツ語を学んできた生徒で あり、来年からは高校一年で0(ゼロ)からドイツ語 を始める生徒を同時期にこのレベルまで引き上げなけ ればならないわけで、ドイツ語教員の一人として決し て楽観できる環境ではありません。さらに、月一回行 なわれる連絡会議への出席や、コーディネーターとの 調整、催しが行なわれるたびに発生する引率という仕 事など、授業以外の雑務が際限なく我々教員に課され ています。PASCHパートナー校という、他には得 がたいチャンスを与えられながら、その一方で、カリ キュラム改定の関係で十分な時間のドイツ語授業が確 保できないでいる私達ドイツ語教員の忸怩たる思いを よそに、ドイツから帰ってきた生徒、ドイツ語で一生 縣命電話をしている生徒、ダンス教室で恐る恐る他校 の女子生徒を誘ってダンスにこぎつけた生徒達の、何 かしら達成したような満足気な顔を見ることだけが報 いなのかなと考えさせられる今日この頃であります。

# クラス会だより

#### 昭和20年 5卒ドイツ語科クラス会 芽城会

卒業後65周年にあたる本年5月16日(日)新宿小 田急ハルク8階の楼外楼飯店で芽城会を開催した。参 加者は21名で、何十年ぶりかで鈴木勘也君の出席が あった。一瞬誰だか判らない者が大部分であった。卒 業時150名ほどだった級友も半分以下に減り、今回 64名に通知を出して三分の一の出席となった。欠席 の級友たちは何れも歩行困難だったり、病気が理由で あり、歳のためとはいえ淋しい限りであった。

昨年は、三穂乙実、吉原直己君の2名が残念ながら 冥界の人となった。

出席の諸君に現状の報告をしてもらい、その後は、 それぞれ昔話に花が咲いて三時間の宴も賑やかに過 ぎ、翌年の再開を約して閉会となった。

(神山一郎・記)



#### 昭和27年卒 花の二七会

平成22年9月25日(土)午後1時より午餐会形式 で定例の神楽坂「トリノ」で上記同窓会を開催しまし た。92才になられた恩師大久間先生を今回もお迎え

し、諸兄17名、赤平夫人(当レストランの社長)と 共に総勢19名が集合し、食事をしながら各自が近況 を述べ合い、和気藹々の会合となりました。

大久間先生からは江戸時代・天明期に作られた「黒 髪」という歌謡を聴かせていただき、先生の張りのあ るお声とお元気さから、我々後輩は言い知れぬパワー をいただいた次第でした。

来年9月17日(土)に此処での元気な再会をお互 いに約束し散会しました。

(幹事:岩田、久米/末吉、佐藤)



#### 昭和31年卒 ドイツ語クラス会

卒業50周年を記念して椿山荘でのクラス会のおり に決めた年1回の会合もおなじみになった銀座獨協倶 楽部で開くこと3回目

今回は恩師富岡先生の欠席、他三名欠席、2名の物 故者とこじんまりとした会になってしまいました。

出席者全員の黙祷では、故人と親しかった近藤君に 羽里幸彦君の黙祷の発声を、山口(和)君に成田信昭 君の黙祷の発声をお願いして、皆で他界した2名の冥 福を祈りました。

# クラス会だより

批評家の小林秀雄氏の言葉で(私は死後の世界が有ると信じたい、なぜなら先に逝った親しい人たちにあえるに違いない、そう信じる方がずっと楽しい)うろ覚えの言葉をおもいだし、感慨にふけっていたのもつかの間でした。

親しい友人達との談笑、同じ学びの庭で過ごしたときを思いユッタリした時間がながれてゆきました。

また1年後に会おう、を合言葉に会をしめました。

(山口眞護・記)

#### 昭和40年卒 獨新会

例年にない猛暑の7月31日(土)恒例の獨新会を「芝とうふ屋うかい」に於いて、恩師小平先生の古希を祝う宴と同時開催致しました。参加者は15名でした。楽しい2時間30分もあっという間に過ぎ、先生に記念品をお贈りし、散会しました。次回開催は恩師国松先生の喜寿を祝う会として来年4月16日(土)に予定しております。今回出席できなかった級友も次回は奮ってご参加下さい。 (高野邦彦・記)



#### 昭和 41 年卒 「50 年の芳醇さ漂う」

平成22年6月26日(土)に、築地の寿司屋で獨協中学のクラス会を開きました。

私たちは昭和34年、獨協中学1組ドイツ語クラスへ入学しました。当時1組の人数は54人、ベビーブームの申し子と呼ばれ、いまは団塊世代のトップと言われる者の集まりです。

クラス会にこれと言った名前はありません。皆にクラス会案内を出すときは、主管が神田直人先生だったので「神田クラス会」としていました。その神田先生が昨年亡くなられ、今回初めてヘソのないクラス会になりました。先生のご逝去はちょっと早かったとは思いますが、ご冥福を祈るばかりです。

今回は中学入学から 50 年が過ぎた、節目のクラス会です。15 人が集まりました。物故者と行方不明者を除くとクラス全員のおよそ3分の1に当たります。多くもなく、少なくもない人数です。

私たちは、6年間一緒だったおかげで、たがいに性格を知りつくしています。そこでクラス会では見栄も気どりも通用しない、裸で向き合う懇親になります。

その一方で、私たちは社会の最前線をかいくぐり、還暦を過ぎました。私たちはいまや、このまろやかさと香りに魅せられて集まるというわけです。

獨協時代のアルバムを持ってきてくれた者がいました。中学入学から高校の修学旅行、卒業写真までのアルバムです。大いなる懐古趣味、大いに結構なことです。でも個人的には中学の入学写真を見て、私がどこにいるのか一瞬わからなかったことに驚きました。

来年からは毎年クラス会を開く予定です。

(奥田博・記)



#### 昭和41年卒 糸井38会

猛暑の季節が漸く翳りを見せ始めた9月19日(3 連休の中日の日曜日)12時より、椿山荘タワー棟4 階、庭園を見下ろす宴会場のマーズにて2010糸井 38 会が開催されました。 糸井 38 会は、 昭和 38 年高 校入学の糸井先生担任の1年3組ドイツ語クラスのク ラス会。2004年に第1回を開催し今回6年ぶりの第 2回開催となったものです。今回の参加メンバーは、 前回開催時にはピースボートでの世界一周クルーズの 報告をされ、今回はまた北海道サイクリングツアーを 敢行されてますますお元気の糸井先生を始めとして、 還暦の一線を越えた元紅顔の美少年13名。還暦を挟 んで環境変化があった者、現役として変わらずに多忙 な日々を送っている者など、それぞれの近況を報告し 合いながら、遠慮のない冗談が飛び交う和気あいあい の盛り上がりの中、楽しいひと時を過ごすことができ ました。今回は、同朋槍田松慧君の本年4月の急死、 坂井格君の病気療養等を契機として、互いの元気な姿 を確認したいとの思いから開催となったものです。連



# クラス会だより

絡の過程で、ブタペストの地で新規事業の準備中という大久保正光君、富士山麓の河口湖近辺に自宅を構えて青木が原樹海のガイドをしているという荒明徳君、60歳を迎えて産婦人科のクリニックを栃木県佐野市で開業した丸山正次君等を始め、多数の朋輩達の元気な消息を確認することができました。二次会は日曜日にも関わらず新橋の素木君常連店で挙行し、糸井先生も一緒にカラオケを交えて盛り上がり、夕刻になってから皆家族への土産の関口フランスパンを手に解散となりました。次回はまた多数のメンバーと共に盛り上がりたいと思います。

写真は、前列左より福島秀雄、伊藤義彦、糸井先生、 伊藤新、田島郁文、後列左より坂田明弘、素木岫一、 西山道久、佐野俊一、細谷隆男、小田原満、斉藤(旧 姓中里)忠行、関保夫(敬称略)。 (伊藤新・記)

#### 昭和41年卒 古川 38 会

平成22年度古川38会は6月6日(日)に昨年同様に新宿ドイツレストラン「カイテル」で開催いたしました。総勢は古川成太郎先生を含め20名という過去最大数の出席者となりました。本年は我々が中学に入学して以来丁度50年という意義深い年であります。すなわち出会って半世紀が経ったことになります。古川先生は少々お体が弱くなられておりますが、相変わらずの落語の一席をいただきました。一人ひとり近況をご披露いただき、大盛況の内に一次会が終了。二次会には江澤敏夫君が合流し大騒ぎmp一日を過ごしました。来年は25名の参加者をノルマに開催いたしますので、よろしくご出席の程お願いいたします。

(遠藤・記)



#### 昭和41年卒 獨協1月会

平成22年1月16日(土)目白・椿山荘にて今回は45回目を行いました。場所を母校前の椿山荘にしましたのは、神田先生が逝去されたので、先生を偲んで目白の新校舎も見学をしたい希望がありましたので、学校の内部も見学をしてからの懇親会でした。残念ながら、参加者が7名と少なかったのが、こころ残りでした。

今後は、津川先生にも声をおかけして、来ていただこうと言うことになり、来年は、是非とも、参加していただくように連絡を取りたいと思っております。来年は2011年1月15日(土)に川越で森田君が幹事で行うことになりました。

尚、ゴルフを企画しておりますので、参加の方はお早めに森田君へ連絡してください。森田君の連絡先は:0492-225-0929です。歯科医院の電話ですので「獨協の卒業」といってください。

今回の参加者:佐藤和美君、河崎達彦君、長村洋君、 森田芳和君、堀江重之君、小杉喬志君、中村昭美

(中村昭美・記)



#### 昭和53年卒 **獨協ハーフ会** 設立しました

去る5月22日(土)日暮里ラングウッドホテルにて、昭和53年獨協高校卒業生有志で『獨協ハーフ会』を起ち上げました。当日は恩師冨岡卓先生にもご参加いただき、各自近況を報告し合い和やかな楽しい会となりました。この年齢になると、親の不祝儀や介護の問題、自分の健康問題、子供の進学問題などいろいろありますが、皆さま、人生ハーフ、残りの人生楽しみましょう!! (西原由恭・記)



#### 平成18年卒 同期会

10月9日(土)椿山荘で学年全体での同期会を開催した。参加者は教員7名を含めた75名という多くの参加者が集まり、非常ににぎやかな会となったが、松本先生が欠席されたこともあり、もの足りなさを残す会でもあった。今後このような会が開催される際には是非とも参加して頂けたらと思う。卒業以来5年振

# クラス会だより

りに再会したという友人も多くいるにも関わらず、会えばたちまち中学高校時代の姿になり、関係性を取り戻し、大学も社会の肩書も、まして利害関係など存在しない、純なまの友情がそこにはある。「旧友をつくることは不可能だ。何ものも、あの多くの共通の思い出、共に生きてきたあのおびただしい困難な時間、あのたびたびの仲たがいや仲直りや、心のときめきの宝物の尊さには及ばない。この種の友情は二度とは得難いものだ」と言ったのはサン・テグジュペリ。そんな当たり前のことを思い出すきっかけになってくれれば本望である。 (吉川怜・記)



#### 松本歯科大学獨協会

去る平成22年6月19日(土)開催の獨協中学校・高等学校同窓会定期総会・懇親会終了後に、池袋西口・ 瓢池袋店にて昨年に続き、松本歯科大学獨協会の開催 を致しました。

今回は、松本歯科大学2期から22期卒業の9名先 生方に参加いただけました。



懇親会では、高校現役時代の交流話、授業、部活動などの懐かしい話で、大変な盛り上がりとなり、一次会途中にて一人行方不明となりましたが、二次会は一人の不明者を除き全員出席と相成り、またの再会を誓って、散会となりました。

最後になりますが、当会開催にあたり、多くの諸先輩方、鹿野君、他 ご協力をいただいた皆様方に感謝の意を表したいと思います。 (会計幹事・記)

#### サッカー部OB会

平成22年6月5日、昭和44年卒サッカー部OB電貫省氏が住職を務める御寺院、茨城県古河市内の本成寺において、吉田卓司先生ご夫妻ならびにご遺族の方々をお迎えして厳かに執り行われました。今日まで確認している物故者は、過去に顧問の労をおとりくださった、神田直人先生、西山公昭先生、田代力也先生(獨大)、そして戦前の蹴球部でご活躍になった昭和14年卒の渥美節夫氏を含め、合計12名です。サッカー部は昭和31年に昭和34年卒の方々によって創部は昭和31年に昭和34年卒の方々によって創部とれました。平成18年に創部50周年記念行事を開催して以来、OB会の活動を拡げています。しかしながらOB名簿が未だ不完全です。各行事のご案内が未着の方は、お手数ですがお知らせください。最近ご卒業の方、住所が変わった方、短期間でも在校中に所属された方もご連絡をお待ち申し上げます。

沖山秀司(昭和 49 年卒)090-9310-1553 h-okiyam@fk9.so-net.ne.jp FAX:03-3729-9362



# 私の近況

●3月で103歳になり、現在大阪府枚方市の老人ホームでお世話になっています。外出は不可能の状況です。

(長男 牧昭夫 記) **牧 祥三**(大 13 卒) ●本年1月10日、昭和17年結婚以来同居の妻の廣子(90才)が肺炎で他界、独身生活しております。食事は近くに住む次女が夕食と朝食を午後7時に運んでくれます。現在元気に暮らしております。

田中 正名(昭7卒)

●私は93才と相成りました。持病の高血圧と糖尿病がありますが、現在は良い薬があるのでこれのお陰で

長生きしてきました。何とか 100 才迄は生きたいと 思って居ります。 **弓削 義邦**(昭 10 卒)

●不安な政権交代この先どうなるか。昭和 10 年卒業当時は見通しをたて希望があったと思う。人生-大正、昭和、平成と生きてきてまもなく 93 才(まだ若い)、心豊かに核の無い世界にならんことを…。

**坪田 実**(昭10卒)

●独協通信を楽しく読ませてもらって居ります。馬渕 氏の"獨協時代の思い出"懐かしく拝見しました。御 盛会をお祈りします。 中島 一(昭12 卒) ●本年1月で米寿を迎え、趣味の音楽で目下中野区民 交響楽団に入って第一バイオリン担当しています。

小澤 武彦(昭14卒)

- ●年に2、3回の母校訪問。通学時江戸川通りから坂を登った思い出、何にもかえがたいとの思いです。長い坂だったですね。 **馬渕 静雄**(昭14卒)
- ●おかげ様で 89 才の長生きです。友人も馬渕静雄君 一人になりました。 **三浦 逸郎**(昭 14 卒)
- ●元気で生きて居ります。妻の老々介護で毎日忙しくしています。福本 博(昭15 卒)
- ●小池校長以降の諸先生のご努力で大学合格率が年々 上昇する中、本年度は防衛大合格者も出て、陸士先輩 として心強く感じております。

**倉谷 三男四郎**(昭16卒)

- 昭和16年3月卒業ですが同級生が少なくなり、お 互いに文通もなく独協通信がなによりも有難く思って おります。洗澤 太郎(昭16卒)
- ●物故者名簿の吉田穣と同学年だから17年卒の名簿にのっている。昨年大動脈解離で入院してしまった。85才でなんとなく生きています。

望月 隆明(昭16卒)

- ●この度「花に魅せられて」と題したアンソロジイを自費出版しました。厳しいマスコミの社会に生きぬき今日迄長生き出来たのも一重に花に対する愛情だと感謝しています。 桜井 保光(昭17卒)
- ●小生 85 才になります。最近はクラス会もないので 寂しいです。今でもゴルフを楽しんでおります。同好 の方はいらっしゃいませんか。 **福本 理**(昭 17 卒)
- ●時々自転車で 40 ~ 50 km走る他は、パソコンで調べ物をしている。張 俊一郎(昭17卒)
- ●いまでもまだ年1回は、当時2クラスあった独語組合同で同級会をやっております。でも10名位は生き残っております。私のところは息子が獨協で孫もいま獨協です。 松井 元司(昭18卒)
- ●去年まで歴史古道探索などおつきあいし、壱岐・対 馬・五島等海の道までお供しましたが、現在腰から弱 くなり、ついつい家の中で読書などで過ごしています。

**土屋 雅義**(昭18卒)

- ●85才になりましたが、午前中だけまだ高齢者の方々の内科診察をやっています。お友達としてお話相手です。 **渡辺 武**(昭18卒)
- ●獨協中学時代から乗馬をやっていました。戦時中は 軍馬にもっていかれて出来なかったが、昭和21年頃より大学で乗りはじめ、引続き84才の現在まで、自馬に て乗馬を楽しんでいます。 **木村 政雄**(昭19卒)
- ●独協通信74号の馬渕静雄先生(14年卒)の意見 みて当時の私の人生を感じて是非生涯の思い出として 懇親会に出席します。平成7年に脳梗塞を患い毎日ブ ラブラ生活が無念です。 **兒島 成男**(昭19卒)
- ●お陰様で金婚式を過ぎ大過なく過しております。

根本 泰宏(昭19卒)

●東医歯大、順天堂大に勤務して、昭和 42 年から新 潟大学に移り平成 4 年に定年退官しました。生れ育っ た東京を離れて北蒲原の五頭山麓に家内と二人で元気 に暮しています。 **石岡 靖**(昭19卒)

●おかげさまで、元気でおります。私達の卒業年度の 英語クラスのクラス会がなくなったので、淋しいです。

光楽 昭雄(昭19卒)

●小生早や84才、anti-aging につとめていますが、中々うまくゆきません。 明石 鄰三郎(昭20卒) ●前年末より病気治療の為入退院を繰り返しております。「独協通信」懐かしく嬉しく拝見致しておりますが、昭和20年以前の級友が少なく寂しい限りです。

**片倉 正博**(昭20卒)

●安岡昭男編『幕末維新大人名事典』(新人物往来社) 2010年5月刊行。上下巻セット定価58,800円。編 者取次ぎで2割引、送料サービスになります。

安岡 昭男(昭20卒)

●私は昭和20年2月に陸軍航空士官学校に合格しました。同年8月に日本は敗戦し、やむなく医師になりましたが、現在長野市で張り切っております。

小林 正樹(昭20卒)

- 82 才現役で診療生活を続けています。日本外科学会、日本消化器学会、内視鏡学会、専門医更新続けています。 根本 達久(昭 20 卒)
- ●年初脳梗塞を起こし、肺炎を併発し2か月入院しました。獨協は医学系が多いので病院 etc 紹介・斡旋をするところがあっても良いのでは?、いかがでしょうか。 **高野** 実(昭22卒)
- 81 才を越し、余生を母校明治大学の大塚考古学教室で学んで居ります。5 年前からパソコンも習い、ホームページも作成出来る様になりました。

福嶋 昌彦(昭22卒)

●老人クラブに参加しています。毎日夕方、30分走って、健康に注意しています。 **内海 敏雄**(昭23卒) ●元気でボランティア活動をして居ります。

**佐藤 隆一**(昭26卒)

梅田 博(昭30卒)

- 50 数年前以来の同窓会出席です。商売も閉め、運転免許証も返上、今年の誕生日で喜寿を迎える次第です。新しい獨協の校舎を見るのも楽しみです。拙宅から歩10分位の所に住んでいて行き来のあった1年先輩の昭和26年卒倉田健一氏が昨年(H21.5.30)逝去され、又淋しくなりました。 筒井 昭(昭27卒)●元気で生活しています。趣味のウォーキングも60才から述べ5万2千kmを突破、その他に横浜市のゴミ減量作戦G30のコーディネーター、旭区のサポーター等多忙な毎日を過しています。与那原 邦夫(昭29卒)●昭和30年卒・森田氏幹事で5月25日(火)・5月26日(水)神奈川県三浦市へ長畑君、宮井君、甘楽君、梅田で1泊旅行に行って来ます。同年卒の方々もきっと何処かで集まりの事と思います。独協通信に投稿下
- ●前期高齢者の仲間入りしましたが元気です。生物部 OB 会でも開きたいと思っていますが、なかなか連絡 が取れなくなっています。 **滝川 国勝**(昭 32 卒)
- S33 年卒業(英・独クラス合計 200 名位)の"有

志の集い・燦燦会"を東京近傍者だけでも企画したい ものですが、同期生皆さん如何でしょうか?

山寺 央也(昭33卒)

- 2010.3.31 定年退職しました。現:椙山女学園大学 名誉教授。中山 晃(昭33 卒)
- ●日本小児科医会の常任理事も辞めさせてもらい、川崎市医師会の副会長を残すのみとなり、来年3月にはフリーの小児科医となる予定です。

**竹本 桂一**(昭34卒)

- ●黒田病院の勤務、中央労災医員の2年延長、日本泌尿器科学会教育局長、日本対がん協会のがん相談委員などの仕事をしながら古希を迎えようとしております。 松島 正浩(昭35 卒)
- ●独協通信第74号での「私の近況」のページで、私 と同期の仲間が多く出ていたのが大変うれしく又、仲間の近況が見える様でした。私も35年卒で、大塚弘 君の「独四会」の一員です。 森 翼(昭35卒)
- 1957年の校舎落成記念の手拭を見ると、旧校舎での ことが懐かしく思い出します。 **高山 学**(昭35卒)
- ●体力の衰えを感じながらも日々診療に励んでいます。 同窓会の発展を祈念致します。 高橋 徹(昭36卒)
- ●昨年4月に後継者に病院をまかせてのんびりの毎日。 屋上で野菜を作る毎日です。 斎藤 正興(昭36 卒)
- ●昭和 37 年卒の同期 6 名と久しぶりに同期会を開催 し旧交を温めました。 **橋本 設夫**(昭 37 卒)
- ●平成22年3月末日をもって、日本医薬品卸勤務薬剤師会事務局長を退任しました。ここ2~3年、クラスメイトの永田敏夫君、伊藤利之君、山田幸弘君等と毎月1~2回ゴルフ等で旧交を温めています。

**石山 腎一**(昭38卒)

- ●君達は可能性そのものだ!研修医など若者に声をかけながら、地域医療の充実に努めています。
  - 石川 詔雄(昭39卒)
- ●本年(秋頃)昭和39年入学時の(高校)1年3組のクラス会を予定しています。尚、昭和41年卒業の 槍田松慧君が平成22年4月8日に亡くなりました。 以上ご報告を致します。 伊藤 新(昭41卒)
- ●天野精神を強く守り、日々精進しております。医院 玄関には貞祐先生の写真を飾ってあります。

**礒谷 良仁**(昭41卒)

- ●昨年から池尻大橋駅前商店会会長をやっています。
  - **岸 房孝**(昭41卒)
- '08 年 12 月に胆管ガンの手術を終えました。10 年 2 月と 4 月に膀腔ガンの手術をし、まだ生きていま す。 **戸田 豊**(昭 42 卒)
- ●ファンのみなさん長い間大原麗子を応援いただき大変有難う御座いました。姉に代わってお礼申し上げます。 **大原 政光**(昭 43 卒)
- ●元気です。内田和博君、戸山高校校長就任おめでとうございます。岸太一郎君の御冥福をお祈り申し上げます。 **高島 保徳**(昭45卒)
- 2000 年春、日商岩井・自動車本部を離れ、スズキ ㈱へ転職。8年間お世話になりました後、亡父の職を

引き継ぎました。 **武井 雅史**(昭 46 卒)

- ●現・獨協中・高PTAの会長として4期目。最後の1年を獨協のために頑張ります。 **木原 正義**(昭47卒) ●法律事務所開業時に誕生した長女が、成人式を迎え
- ました。二女も大学生となり日吉まで通っています。

**戸崎 诱**(昭47卒)

- ●独語クラスで唯一? 天野貞祐校長の授業を受けたのが自慢です。難波 潤(昭47 卒)
- ●長男日大松戸歯学部5年、次男一浪して日大医学部へ入学。全員私立で過労死するまで働けと妻にいわれております。 **生田 哲**(昭50 卒)
- ●獨協学園の発展大いに期待して居ります。良き教師と良き学友との出会いの獨協、これからも良き後輩を出して下さい。 **吉田 浩治**(昭 50 卒)
- ●荒川区東日暮里でクリニックを開業して 11 年目となります。獨協の卒業生が受診したときには、木原正義 PTA 会長(昭和 47 年卒)と作成した「I LOVE DOKKYO」のシールを差し上げています。

谷田貝 茂雄(昭51卒)

- S51 卒・獨語クラス (旧獨、新獨、担任神田先生)。 飲み会やゴルフコンペやっているので連絡してくださ い。 **宮下 浩平**(昭 51 卒)
- ●東京で生れ育った自分が、ふらりと来たここ岡山で 歯科医院を開業して18年が経ちました。逆に岡山で 育った子供達が東京の大学に行って、楽しんでいます。 現在日大医学部に通学していますが、獨協の同窓生で 日大出身の先生方、宜しく御指導お願いいたします。

平山 雅仁(昭52卒)

●同期会を活性化させるべく、仲間に声掛けをしています。働き盛りでしばらく時間がもらえなさそうです。 情報発信だけはしつづけようと思います。

**谷口 有三**(昭 53 卒)

- 76 才の父が現役でバリバリ社長業を続けております。万年副社長です。都築 基(昭 54 卒)
- ●昨年12月、30周年記念同窓会が無事に終了し、ホッとしています。又、同窓会をやりましょう!ありがとうございました!! **野村 芳樹**(昭54卒)
- ●マラソンにはまって4年目。ホノルルマラソンが一年の締めくくりです。自己ベストは2009年のホノルルマラソンの3時間28分40秒です。

**勝谷 雅昭**(昭55卒)

- ●池袋で整形外科のクリニックを開業しています。獨協生もケガをしてよく来るので、昔話などすることもあります。 木村 元(昭55 卒)
- ●同級生の松本太郎君が日本大学医学部先端医学系細胞再生・移植医学分野の教授に就任したことを知り、29年ぶりに会いました。素晴しい研究室とスタッフに囲まれ、今後の益々の活躍が楽しみです。

**宇田川 信之**(昭 56 卒)

●岩間君、星谷君、鈴木淳君達と30年振りにバンドを組んで、BOSTON等のコピーやってます。

田 昌守(昭57卒)

●四捨五入すると50才台になってしまいました。同

窓会・クラス会だけが唯一の楽しみになってきてしまいました。 **鈴木 一成**(昭 58 卒)

- ●自分の子供も母校を受験することになりました。是 非共合格して欲しいと思います。金子 久章(昭59卒)
- MR として 22 年。業界の大きな流れ (M&A) の中、 3回目の社名変更です。今年、長女も獨協埼玉高校に 合格しました。朝倉 康正 (昭 60 卒)
- ●長野に来て10年。4人の子供達とカミさんと供に、楽しく田舎暮らしをしております。春には山菜、夏にかけて釣り、秋にはきのこ、冬はスキーと自由気ままに生活しております。 高塚 政人(昭61卒)
- ●弁護士になり 15 年目を迎えました。初心を忘れないことを心がけ、がんばろうと思います。

**佐々木 広行**(昭62卒)

●1月に長男が生まれ、4月に長女が小学校に入学。 私は、現在主任昇任。大学誘致推進室に異動。東京理 科大学の誘致に関する仕事をしています。

藤島 一郎(平07卒)

- ●千葉大学大学院で修士2年となり、修士論文に向けて、研究をしております。就職先も決まり、残りの大学院生活を送っております。 藤田 翔平(平16卒)
- ●現在、横浜国立大学大学院・教育学研究科。自然系教育専攻に通っています。 **降矢 貴充**(平17 卒)
- ●東北大学大学院1年在学中。 梶 友祐(平17卒)
- ●青森県十和田市でたくさんの動物に囲まれながら、 楽しく、充実した大学生活を送っています。

**大浦 慶祐**(平19卒)

●今年度で東京理科大学4年生となり、体育会剣道部の主将を任されております。部活では4年目にしてようやくレギュラーとなり、学業では多忙を極めておりますが、忙しい中で充実感ある日々を送っています。

**山本 智博**(平19卒)

●アーチェリー部のコーチになり3年がたちます。現在、部員が徐々に力をつけてきており、去年は全国大会へ出場させることができました。これからもアーチェリー部は全国でも通用する強豪校となることを目

指しがんばっていきますので、応援を宜しくお願い致 します。 **石渡 晶悟**(平 20 卒)

●高校生活を謳歌しすぎたツケがまわってきました。学舎に恩返しすべく、浪人生活を頑張っております。

福田 太貴(平22卒)

# 追悼

昭和23年卒 橋本 徳朗

畏友 佐藤伊久男君が本年6月に病没した。享年79歳 東北大学名誉教授「西洋史」として荘重な葬儀が営まれた。ここに一文するのは戦時下の獨協生として彼がどう生きたかを紹介するためである。彼自身「獨協百年」第二巻に「敗戦の年」という題で寄稿しているので詳細は省くが昭和20年5月防衛のため学校に宿泊中に空襲に遭遇 防火に奮闘して校舎を守る。同7月末動員先の工場でローラーに右手を挟まれ指を失う重傷を負う。復学後左手の筆記を始め勉学に励み青学大から東北大に進み研究者、教育者として大成した。彼は卒業後も獨協を愛し恩師級友を大切にしてきた。少年期の苦痛苦悩を越えて人生を全うした一獨協生がいたことを記憶したい。

訂正 独協通信 74号の「私の近況 卒業ん十年」 の氏名・卒業年に誤りがありました。関係者の 皆様にお詫び申し上げますとともに、以下の通 り訂正いたします。

正 誤 氏 吉野 紘正 吉野 紘• 名 氏名の字体 花岡 紀夫 花岡 紀夫 土屋 寛芳 氏 土谷 寛芳 名 卒業年度 武方 浩紀 武方 浩紀 (平2年) (昭55年)

#### コンビニ振込用紙の取り扱いについて

同窓会の年会費を今春より、「ゆうちょ銀行又は 郵便局・金融機関用払い込み用紙及びコンビニエ ンスストア用払い込み用紙」で納入していただく ようになりました(「独協通信」74号15ページ参 照)。「コンビニエンスストア用払い込み用紙」は 利用期限がありますので期限内でご利用ください。 なお、期限が過ぎましても「ゆうちょ銀行又は郵 便局・金融機関用払い込み用紙」を利用した払い 込みは、一寸不便ではありますが従来どおり利用 できますので是非払い込みをよろしくお願い申し 上げます。この「独協通信」の印刷、配布を含め 会の運営は会員各位の年会費で賄われております。 未納の方はこの機会に是非納入をお願いします。

# 編集模記

時代の変化が目まぐるしい今日この頃です。人は社会の動きに翻弄されがちな日常を過しています。青春のひと時を過ごした学び舎は、私たちに

確乎たる生き方の基盤を与えてくれたものと思います。世の中の流れに流されることなく、卒業生としての誇りを持ち続けたいものです。 (竹文)